

元代私印(パスパ字漢語)五顆

吉池孝一

パスパ文字で漢語を音写した元代の私印を五点紹介する。印影とその字解は本文末尾に付す。なおこれらの印章は古代文字資料館が管理をしている。

1. 「金記・合同・利市」印

印面(方形) : 25.05 × 24.39mm 全高 : 23.96mm 重 : 38.0g

鈕形 : 塀鈕 材質 : 銅

パスパ文字で書かれたものは、漢語、モンゴル語など言語を問わず、縦に左から右にしるすのが通例となっている。漢語のばあい通例に反して右から左にしるすものもある。パスパ文字の正書法からすると、左から「金記・合同・利市」と読むことになるけれども、内容よりみて右から「利市」(儲けなどを意味する吉祥語)、「合同」(契約)と一般名詞がならび、人名の姓である「金」に「記」を付した「金記」で納めたとも考えられる。この印章のばあい、左右どちらからとも決定はできない(あるいは決定する必要がない)というところであろう。字体・字形につき、中央の「合同」は興味深い。「合」はパスパ文字の篆書体、「同」は漢字の篆書体。一つの単語を二種の文字でしるす例としては他に「印記」がある。「印記」は「印」が漢字の篆書体、「記」がパスパ文字の篆書体となっている。このような漢字とパスパ文字よりなる「印記」は文献資料によると数点ある。「合同」について、二種の文字でしるしたものは寡聞にして本印以外に例のあることを知らない。なお、「合」の音節初頭子音 ᠬ の字形は ᠬ 。左端の縦線が欠けている。印影ではハッキリしないけれども、肉眼によると、縦線部分の銅材の欠落を確認することができる。篆書体を集めた照那斯図(1980)の印章や碑文の箇所はこの字形に相当するものはない。『蒙古字韻』の ᠬ とある。これは本印と一致する。実物資料をもって『蒙古字韻』の字形を実証することができる例である。

2. 「褚氏 / 褚記」二面印

印面(方形・正面) : 20.58 × 20.19mm 印面(方形・側面) : 20.58 × 9.26mm

全高 : 21.97mm 重 : 40.6g 鈕形 : 塀鈕 材質 : 銅

正面にパスパ文字で ᠴᠡᠦ 、漢字で「氏」とある。パスパ文字 ᠴᠡᠦ は人名の姓「褚」に相当し、印面全体は「褚氏」と読める。パスパ文字 ᠴᠡᠦ の ᠴ と ᠡ には装飾がほどこされている。 ᠴ は上辺の平行な線が左にのびている。 ᠡ の左側も線が反りあがって髭のように左上に伸びている。これは印章用の装飾であり、左隣花押風文字の一部ではないとみる。このような篆書体の方式とは無関係な装飾が施され、パスパ文字が変形される例は少ない。左隣に漢字の「氏」があるけれども、これも花押風に変形されている。

側面にもパスパ文字で「褚記」とある。一印に複数面あることより、それぞれの印面の用途が異なっていたことがわかる。

3. 「t'uj gi」印

印面：26.25 × 18.62mm 全高：16.98mm 重：14.8g

鈕形：鼻鈕 材質：銅

「t'uj gi」が「金記」や「趙記」のように人名の姓に「記」を付したものが、それとも「謹封」「封記」「印記」のような用語であるのか分らない。孫慰祖(2001)は「侗記」と読み「侗」を人名とする。しかし「侗」は人名用の字として一般的なものではない。一般的でないにもかかわらず「t'uj gi」印は文献資料と本印を併せて少なくとも5点は存在する。その上すべて同形で大きさもほぼ等しく既製品として数多くつくられた可能性もある。人名の可能性は低いと言わざるを得ない。「t'uj」に対応しそうな漢字をみると、「通」と「統」くらいである。そこでかつて『KOTONOHA』1号で「通記」(広く用いる印)という案を提出したことがある。もっとも、「通記」は一般的な用語ではなく他にこの案を支える資料もない。なお検討を要する。

4. 「印記」印

印面(瓢箪形)：28.59 × 14.10mm 全高：11.09mm 重：4.7g

鈕形：鼻鈕 材質：銅

瓢箪形の上方に漢字篆書体の「印」があり、下方にパスパ文字の「記」がある。漢字で「印記」とする印章があることから、本印を「印記」と読むことに問題はない。漢字とパスパ文字の組み合わせからなる「印記」印は文献の例と併せて数点にのぼる。すべて「印」が漢字で「記」がパスパ文字という組み合わせになっており、その逆はない。印章の用語として、「印」が伝統的なもので、「記」の方は比較的新しいものであるため、書き分けが固定したのであろう。

5. 「gin fu」印

印面(方形)：19.92 × 119.55mm 全高：19.70 重：17.5g

鈕形：鼻鈕 材質：銅

孫慰祖(2001)は gin fu を「謹付」と読む。ただしこれを支持する漢語印の存在については、私は寡聞にして知らない。なお検討を要すると思われる。

以上五点紹介した。内四点にパスパ文字の gi「記」がみられる。この gi をめぐる元代印章の分類やその用途については中村雅之(2004)を参照されたい。

参考文献

照那斯图(1980)「八思巴字篆体字母研究」『中国語文』1980年第4期。pp.307-

309,269 .

孫慰祖(2001)『唐宋元 私印押記集存』上海書店出版社 .

吉池孝一(2002)「民族古文字の一資料」『KOTONOHA』第1号(2002.11.1) .

中村雅之(2004)「元代パスパ字印----「gi」についての覚書」『KOTONOHA』第18号(2004.5.23) .

印影（実物大）と字解

1. 「金記・合同・利市」印

gi 金 Y 合 l 利
i o i
m

gi 記 同 s 市
i

2. 「褚氏／褚記」二面印

č' 褚 č' 褚
e e
u u
氏 g 記
i

3. 「t'uo gi」印

t' t'
u u
u u
g g
i i

4. 「印記」印

印 印
g 記
i

5. 「gin fu」印

g f
i u
n